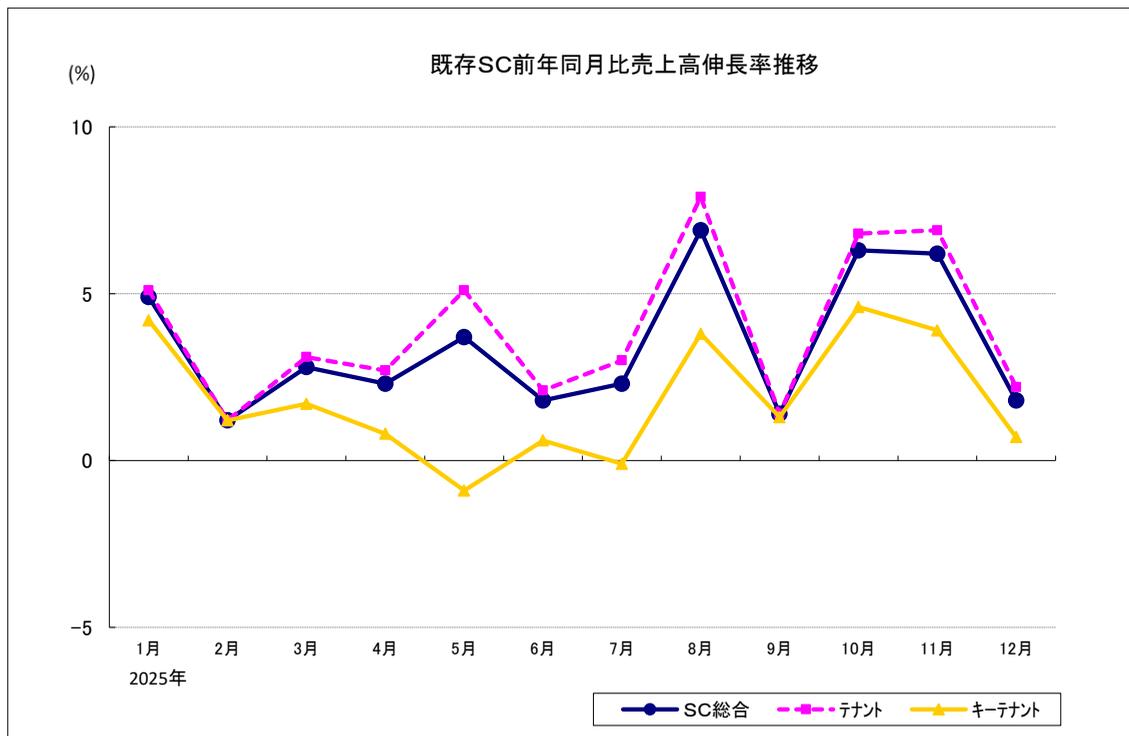


SC年間販売統計調査報告2025年
既存SC前年比伸長率: +3.5%
SC年間売上高(推計) 33兆1,238億円(前年比+2.7%・消費税抜・全SCベース)
販促施策やテナント入れ替え・改装効果などにより堅調に推移

<全体概況>

- 2025年(暦年)の既存SC売上高伸長率(総合)は、2024年比で+3.5%となった。館の販促施策、館内・近隣イベントの増加、テナント入れ替え・改装効果により前年超えとなった。2021年以降、5年連続前年比プラスで推移している。
- キーテナントを除くテナントは前年比伸長率+4.0%となった。ファッション業種は、気温に合わせてジャストニーズの商品を展開できた店舗や在庫を確保できた店舗が好調だった。飲食業種は、旅行客や帰省客、館周辺イベント来場客の利用が多く、通年で好調に推移した。サービス業種は、映画のヒット作に恵まれたことでシネコンが好調だった。
- キーテナントは前年比伸長率+1.6%となった。2024年に比べるとインバウンド客による高単価商材の購入が落ち着いたことで、百貨店は低調に推移した。一方、食料品を扱うスーパーは商品の価格高騰が売上増につながった。
- 月別の動向をみると、通年で前年比プラスで推移した。1月(+4.9%)は、気温低下により冬物商材が稼働、下旬から春節が始まったことでインバウンド客の来館が多くみられた。2月(+1.2%)は、2024年がうるう年だったため月の日数が1日減った影響があった。3月(+2.8%)、4月(+2.3%)、5月(+3.7%)は、気温や天候が不安定だったことで商品展開の難しさがみられたが、館の販促施策などにより前年を上回った。6月(+1.8%)、7月(+2.4%)は、月の平均気温が観測史上最も高くなり、夏物商材が稼働した。8月(+6.9%)は、夏休みのイベント集客効果や休日日数の増加などにより売上げが伸びた。9月(+1.4%)は、残暑の影響が強く月後半まで気温が下がらなかったことで、秋物商材が苦戦した。10月(+6.3%)、11月(+6.2%)は、全国的に気温が低下したことで秋冬商材が稼働した。12月(+1.8%)は、気温が高かったことで冬物商材が苦戦した。



以上

この件に関するお問い合わせは 情報・リレーション部: 菰田・木口
TEL: 03-5615-8524

※お手数をおかけ致しますが、掲載紙・誌をお送りくださいますようお願い申し上げます。掲載部分をファクシミリにてお送りいただいても結構です。



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

広報担当: 浅田

Tel. 03-5615-8524 / Fax 03-5615-8539
Mail: pr@jcsc.or.jp